

中山間地域における潜在的な集落活力指標の作成

- 岡山県を事例として -

岡山大学大学院環境学研究科・長谷川裕一

岡山大学大学院環境学研究科・駄田井 久

岡山大学・佐藤 豊信

1. 課題と目的

近年、中山間地域においては、集落活力の低下が、地域社会全体の停滞等の問題を引き起こしている。地域社会の維持のためには、集落活力の向上を目指した取り組みを講じる必要がある。集落には様々な類型が存在すると考えられる。例えば、現在の集落活力は低い、潜在的な集落活力（以下、ポテンシャル）が高い集落や、現在の集落活力・ポテンシャル共に低い集落等である。より効率的な対策のためには、各集落の状況に応じた対策を行う必要がある。具体的には、集落活力は低いポテンシャルが高い集落に対しては、集落活力の向上を狙いとした対策が必要である。一方で、集落活力・ポテンシャルともに低い状態にある集落に対しては、ポテンシャルの向上を狙いとした対策を講じる必要がある。そのためには、ポテンシャルを定量的に示す指標の作成が必要である。

そこで本研究では、既存の統計データを用いて中山間地域農業集落のポテンシャルを示す指標の作成を行う。次いで、作成した指標から得られるポテンシャル値と集落活力を示す指標との比較を行い、集落の類型化を行う。その結果に基づき、より効率的な中山間地域対策の方向性の検討を行う。

2. 対象地域

対象地域である岡山県美作市は、県北東部に位置している。農業集落数 269 集落、高齢化率約 34%、総世帯数に占める農家世帯数約 38%の典型的な中山間地域である。

3. 研究の流れ

ポテンシャルとは経済的側面、社会的側面の二つから構成されている。それらを表している基本指標を 2000 年世界農林業センサス（一部、2005 年農林業センサス）から抽出した。次いで、主成分分析を用いて基本指標を体系的に集約化し、集落のポテンシャルを示す指標を作成した。この指標をもとに全集落のポテンシャル値を計測した。その後、ポテンシャル値と集落活力を示す指標との比較を行い、集落の類型化を行った。さらに、集落類型ごとに中山間地域対策の方向性を検討した。